

## 「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿〈12月20日（金）放送分〉

### テーマ「奄美群島12市町村の伝説・昔話」

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。今日は、毎月第3金曜日にお届けしている、奄美の伝説や昔話などを紹介する「奄美群島12市町村」シリーズの第9回目、徳之島町の昔話「魚女房<sup>にようぼう</sup>」です。

昔、ある村に正直者で働き者の青年がいました。青年は働いても働いても、自分のためにはお金を使わずに、全部年寄りや子どものために使っていたので、いつも貧乏な暮らしをしていました。

ある年の大晦日<sup>おおみそか</sup>の夜、青年はお正月も十分に過ごせそうになかったので、夜の漁に行きました。しかし、その夜は何も見当たらないので、「何もなくても、正月はどうにかなるだろう。」と言って、浜まで戻ってきたところ、小さな潮だまりに一匹のとてもきれいな魚がいました。

青年は、「こんな魚は生まれてこのかた見たこともない。これは家に持って帰って飾っておこう。」と言って、その魚を銚<sup>もり</sup>で突かずに、手で丁寧にすくいました。

青年は魚を家に持ってきましたが、あまりに魚がきれいなので食わずに、きれいな布に包んでおきました。

そうして自分は食べ物も十分に食わず、お酒も飲まずに、お正月の三日間を家でじっと過ごしました。

お正月も終わったので、いつものように青年は畑へ行き、貧乏をしている人や年寄りに自分が作った作物を食べさせてあげようと懸命に働きました。

夕方になって青年が家に戻ってきたところ、不思議なことに、きれいなお膳<sup>ぜん</sup>にご飯やお魚などが用意されていました。

青年は、どうしてだろう？誰かが来て、私にご馳走<sup>ちそう</sup>を作ってくれたのかなあ？と思って、そのご馳走を食べました。

翌朝、青年が起きてみると、今度は立派な朝ご飯ができていました。

青年は大晦日の夜に取ってきた、きれいな魚が気にかかり、魚を出してみたりしましたが、魚はきれいな布に包まれたままでした。

そんな不思議な朝夕のご馳走が七日間も同じように続いたので、青年は魚を取り出し、包んである布を取ってみました。「どうも不思議なことだ。普通の魚だったら、三日間も置いてあれば、たとえ冬でも腐った臭い<sup>くさ</sup>がするはずだけど、この魚はいつ見ても生き生きとしていて、全く腐っていない。」と青年は言いました。

青年は腐っていない魚について考え、「その魚を取ってきて、お正月の三日間は何もなかったけど、四日目から畑に出て、一生懸命働いたときは素晴らしいご馳走が、あまり一生懸命でないときは、それなりのご馳走<sup>とこ</sup>が作られていた。これはこの魚が何か関わり合っているのかも知れない。」と言って、魚を床<sup>ま</sup>の間に飾りました。

青年は「魚さん、魚さん、本当のことを、私に教えてください。」「私は生まれてこのかた、他人に嘘を言ったこともないし、正直なことばかりしてきました。だから私にだけは正直に教えてください。」と頼んで、ずっと手をたたいて魚を<sup>おが</sup>揉んでいました。

するとそのうちに、魚がだんだん人の形になってきて、やがてきれいな女の人になり、「あなたがあまりにも正直で、そしてお年寄りや貧しい人のためばかりに働き、自分のことよりも他人のことばかりを大事にしているので、その様子を天から見ている私の両親が、『あのような正直で真面目な男は人間の世界にはいない、神様と同じなので、お前は彼と結婚しなさい。』と私に言ったので、きれいな魚の姿を借りて、あなたの前にやってきました。どうか、私をあなたの妻にしてください。」と言いました。

青年は、「天の神様の娘なら、夫婦で力を合わせて、世の中のために働き、正直に生きていくことができるでしょう。」と言いました。そのようにして二人は夫婦になったそうです。

さて、みなさんは「正直にしている、良かったこと」はありますか。さきほどのお話では、正直で働き者で真面目な好青年が、最終的に神様の娘と結婚しましたね。いわゆるハッピーエンドですが、現実はなかなか思い通りにはいきませんよね。

例えば、母親などに「ほら、正直に言えば、絶対怒らないから。」とか言われて、本当に正直に言った途端、<sup>とたん</sup>「やっぱり、そうだったのね！まったく、この子は！」と怒られた経験は、誰にでもあると思います。いや、必ずあるはずです。

でも、そういうことが積み重なっていくと、「正直に言っても、どうせ怒られるんだから…。」と考えてしまい、ちょっとした隠しごとしたり、嘘をついたりするようになるのかもしれないね。

また、この青年は自分よりも他人を大切にしたり、お年寄りや貧しい人のために働いたりもしていましたが、これも立派なことで、なかなか<sup>まね</sup>真似できることではありません。

いつでも、どこでも、誰に対しても、正直で優しくて一生懸命で…と、そんな人は世の中になかなかいないのかもしれませんが、少しでもそんな人に近づけたらいいですね。

まったく関係ないですが、神様の娘が、きれいな魚から人の姿に変身していく場面がとても気になりました。実際に想像すると、何となく怖い気がしますね…。

さて、このように奄美図書館には、面白いお話を紹介した本がたくさんあります。ぜひ図書館にいらして、いろいろな本を手にとってほしいと思います。職員一同、皆様のご来館を心よりお待ちしております。

以上、鹿児島県立奄美図書館でした。